



## 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成24年7月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アドバンテスト

コード番号 6857 URL <http://www.advantest.co.jp/investors/>

代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 松野 晴夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員 管理本部長 (氏名) 中村 弘志

TEL 03-3214-7500

四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	33,355	24.2	756	△3.6	1,255	231.7	423	22.4
24年3月期第1四半期	26,848	14.1	784	△56.7	378	△76.8	346	△56.1

(注) 四半期包括利益 25年3月期第1四半期 △4,120百万円 (—%) 24年3月期第1四半期 △351百万円 (—%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	2.44	2.44
24年3月期第1四半期	2.00	2.00

#### (2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	213,122	125,708	125,708	59.0
24年3月期	219,226	131,552	131,552	60.0

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
第2四半期(累計)	72,000 ～77,000	11.7 ～19.5	3,000 ～6,000	—
通期	150,000 ～170,000	6.3 ～20.5	12,000 ～20,000	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 一社 (社名)

、 除外 3社 (社名)

Advantest America Corporation (Holding Co.), Advantest America, Inc., Verigy Ltd.

(注)詳細は、添付P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

(注)詳細は、添付P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	199,566,770 株	24年3月期	199,566,770 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期1Q	26,286,253 株	24年3月期	26,295,390 株
----------	--------------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	173,275,300 株	24年3月期1Q	173,271,892 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本短信には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財政状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 簡便な会計処理および特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更	P. 4
3. 四半期連結財務諸表等	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 四半期連結包括利益計算書	P. 9
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(5) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(6) セグメント情報	P. 11
(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 11

<添付資料>

2012年度第1四半期 決算（連結）の概要	P. 12
-----------------------	-------

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期(2012年4月1日～2012年6月30日)の状況 (単位: 億円)

	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年同期比
受注高	384	462	20.1%
売上高	268	334	24.2%
営業利益	8	8	△3.6%
税引前四半期純利益	4	13	231.7%
四半期純利益	3	4	22.4%

(昨年買収した Verigy Ltd. の業績は2011年度第2四半期より連結計上)

当第1四半期の世界経済は、南欧諸国の政府債務問題の再燃に伴う欧州経済の景気後退や、中国における消費者需要の減速感など、相次ぐ先行きへの懸念要素が払拭されないまま推移し、全体の成長ペースは一段と緩やかなものとなりました。

半導体関連市場においては、市場の動きを牽引するパソコンやデジタル家電製品の需要回復に盛り上がりや欠いたことで、全体的に力強さを欠く市況となりました。しかし、スマートフォンやタブレット型端末の性能革新競争や市場拡大を背景に、モバイル機器に搭載される半導体については、微細化や生産能力増強に向けた積極的な設備投資が相次いでいます。

当社は、昨年の Verigy Ltd. (以下、Verigy 社) 買収を機に、グローバルかつ良好な顧客基盤の強化と、モバイル機器向けのテスト・ソリューションの完備を果たしました。これら事業基盤の強化と、モバイル機器向けテスト需要の高まりの相乗効果により、当社の事業環境は2012年春以降、より明るいものへと転じています。とりわけ、性能向上と需要拡大が著しいアプリケーション・プロセッサやベースバンド・プロセッサなどの半導体に対するテストシステムの受注が、当第1四半期に伸長しました。

以上の結果、受注高 462 億円 (前年同期比 20.1%増)、売上高 334 億円 (同 24.2%増)、営業利益 8 億円 (同 3.6%減)、税引前四半期純利益 13 億円 (同 231.7%増)、四半期純利益 4 億円 (同 22.4%増) となりました。海外売上比率は 91.4% (前年同期 87.3%) となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

&lt;半導体・部品テストシステム事業部門&gt; (単位: 億円)

	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年同期比
受注高	326	376	15.4%
売上高	201	259	28.5%
営業利益	26	33	28.5%

当部門は、モバイル機器に搭載される各種半導体向けのテスト需要が活発でした。非メモリ半導体用テストシステム分野では、通信用半導体のテストに強みを持つ「V93000」の引き合いが大きく増加しました。メモリ半導体用テストシステム分野では、モバイル機器用のDRAM向けのテストシステムへの引き合いが伸びました。

以上により、当部門の受注高は 376 億円 (前年同期比 15.4%増)、売上高は 259 億円 (同 28.5%増)、営業利益は 33 億円 (同 28.5%増) となりました。

## &lt;メカトロニクス関連事業部門&gt;

(単位: 億円)

	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年同期比
受注高	45	42	△7.4%
売上高	40	33	△16.7%
営業利益	△2	△11	—

当部門では、昨年中盤以降、メモリ半導体用テストシステムの売上が軟化している影響が継続されました。

以上により、当部門の受注高は42億円(前年同期比7.4%減)、売上高は33億円(同16.7%減)、営業損失は11億円となりました。

## &lt;サービス他部門&gt;

(単位: 億円)

	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	前年同期比
受注高	27	47	73.3%
売上高	29	46	58.0%
営業利益	4	0	△93.0%

当部門では、前年同期比で増収となりましたが、今後の成長に向けた新規事業の基盤整備のための費用も増加しました。

以上により、当部門の受注高は47億円(前年同期比73.3%増)、売上高は46億円(同58.0%増)、営業利益は26百万円(同93.0%減)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は、前期末比61億円減少し、2,131億円となりました。この主な要因は、現金および現金同等物が82億円減少し、棚卸資産が34億円増加したことなどによります。負債合計は短期借入金および未払費用が、それぞれ250億円および35億円減少し、社債および買掛金が、それぞれ250億円および31億円増加したことなどにより、前期末比3億円減少し、874億円となりました。また、株主資本は1,257億円となり、株主資本比率は前期末比1.0ポイント減少し、59.0%となりました。

## (キャッシュ・フロー計算書)

当第1四半期末における現金および現金同等物は、前期末より82億円減少し、500億円となりました。当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益4億円を計上しましたが、棚卸資産の増加(△38億円)、未払費用の増加(△33億円)、買掛金の増加(35億円)および減価償却費などの非資金項目等の損益を調整した結果、19億円の支出(前年同期は、13億円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、33億円の支出(前年同期は、121億円の収入)となりました。これは主に、有形固定資産の購入(△31億円)によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、16億円の支出(前年同期は、404億円の収入)となりました。これは主に、短期借入金の返済(△250億円)、社債発行による調達(250億円)および配当金の支払(△16億円)によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社は、今後のイノベーションを生み出す源泉として、2011年に買収したVerigy社との完全統合および企業文化の融合“Advantest Culture Transformation”を最重要経営課題として位置付け、この頭文字と「行動する」という言葉を掛け合わせた全社運動「ACT2014」を、当2012年度より推進中です。この「ACT2014」運動では、さらなる中長期にわたる持続的成長に向けた経営目標として「売上高2,500億円」、「営業利益率20%以上」「テスト・ハンドラの合計市場シェア50%以上」の3つを定めるとともに、これらの2014年度での達成に向け、全社を挙げ邁進しております。

「ACT2014」1年目となる2012年度は、マクロ経済の下振れ懸念が色濃いものの、今秋予定されているWindows8の販売開始や、スマートフォン市場やタブレット型端末市場への相次ぐ新製品投入により、先端の半導体の生産量増加がさらに促され、それにより半導体テスト市場は当面堅調に推移するものと期待されます。

このような状況のもと、当社は、顧客基盤の拡大と機動的な経営資源の配分に注力し、一層の業績拡大に努めます。また2014年度における中期目標の達成に向けた、クラウド・テストング・サービスなど新規事業の早期の基盤整備にも積極的に取り組みます。

第2四半期連結累計期間の連結業績予想につきましては、売上高は720～770億円、営業利益は30～60億円を予想しております。また通期の連結業績予想につきましては、2012年4月に開示した売上高1,500～1,700億円、営業利益120～200億円から変更ありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

除外 3社

①Advantest America Corporation (Holding Co.)

当該特定子会社は、当社の子会社であるVerigy US, Inc.に吸収合併されました。なお、Verigy US, Inc.は、2012年4月1日付で商号を「Advantest America, Inc.」に変更しております。

②Advantest America, Inc.

当該特定子会社は、当社の子会社であるVerigy US, Inc.に吸収合併されました。なお、Verigy US, Inc.は、2012年4月1日付で商号を「Advantest America, Inc.」に変更しております。

③Verigy Ltd.

当該特定子会社は、当社の子会社であるAdvantest (Singapore) Pte. Ltd.に吸収合併されました。

(2) 簡便な会計処理および特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更

2011年6月に、米国財務会計基準審議会は、包括利益の表示に関する基準を改訂しました。当該基準では、包括利益を株主持分変動計算書で表示する選択肢を削除し、包括利益の構成要素を1つの連続した包括利益計算書で表示する方法か、または連続した2つの計算書として表示することを要求しております。また、2011年12月に、米国財務会計基準審議会は、先に改訂した包括利益の表示に関する基準の新規定のうち、その他の包括利益累計額からの組替調整額の表示に対する修正の適用日の延期を公表しました。当社および当社の連結子会社（以下、アドバンテスト）は、2012年4月1日より開始する第1四半期から当該基準を適用しました。当該基準の適用による経営成績および財政状態への重要な影響

はありません。

2011 年 9 月に、米国財務会計基準審議会は、のれんの減損テストに関する基準を改訂しました。当該基準では、企業が実施するのれんの減損テストにおいて、報告単位の公正価値を算定する前に、定性的要因を評価することが認められ、企業は報告単位の公正価値が帳簿価額を下回るという確率が 50%超であると判断した場合を除き、報告単位の公正価値を算定する必要はありません。アドバンテストは、2012 年 4 月 1 日より開始する第 1 四半期から当該基準を適用しました。当該基準の適用による経営成績および財政状態への重要な影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表等

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2012年6月30日)
資産の部		
現金および現金同等物	58,218	49,994
売上債権（貸倒引当金控除後）	24,119	24,541
棚卸資産	29,836	33,217
その他の流動資産	6,522	7,183
流動資産合計	118,695	114,935
投資有価証券	5,929	4,988
有形固定資産（純額）	34,206	35,365
無形資産（純額）	15,794	14,819
のれん	36,496	35,240
その他の資産	8,106	7,775
資産合計	219,226	213,122

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2012年6月30日)
<b>負債の部</b>		
買掛金	15,659	18,725
短期借入金	25,000	—
未払費用	12,068	8,577
製品保証引当金	2,129	2,070
前受金	2,228	2,195
その他の流動負債	3,288	4,352
流動負債合計	60,372	35,919
社債	—	25,000
未払退職および年金費用	23,444	23,117
その他の固定負債	3,858	3,378
負債合計	87,674	87,414
契約債務および偶発債務		
<b>資本の部</b>		
資本金	32,363	32,363
資本剰余金	42,280	42,274
利益剰余金	179,081	177,751
その他の包括利益(△損失)累計額	△ 22,574	△ 27,117
自己株式	△ 99,598	△ 99,563
資本合計	131,552	125,708
負債および資本合計	219,226	213,122

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2011年4月 1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月 1日 至 2012年6月30日)
売上高	26,848	33,355
売上原価	13,766	15,797
売上総利益	13,082	17,558
研究開発費	5,786	8,054
販売費および一般管理費	6,512	8,748
営業利益	784	756
その他収益 (△その他費用)		
受取利息および受取配当金	117	68
支払利息	△ 1	△ 30
その他	△ 522	461
その他収益 (△その他費用) 合計	△ 406	499
税引前四半期純利益	378	1,255
法人税等	8	853
持分法投資利益 (△損失)	△ 24	21
四半期純利益	346	423

(単位：円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2011年4月 1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月 1日 至 2012年6月30日)
1株当たり四半期純利益		
基本的	2.00	2.44
希薄化後	2.00	2.44

(3) 四半期連結包括利益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2011年4月 1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月 1日 至 2012年6月30日)
四半期純利益	346	423
その他の包括利益 (△損失) (税効果調整後)		
為替換算調整勘定	△ 561	△ 4,236
純未実現有価証券評価損益		
当期発生純未実現損益	△ 214	△ 591
控除 純実現損益の再分類調整	—	—
純未実現損益	△ 214	△ 591
年金債務調整	78	284
その他の包括利益 (△損失) 合計	△ 697	△ 4,543
四半期包括利益 (△損失)	△ 351	△ 4,120

## (4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2011年4月 1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月 1日 至 2012年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期純利益	346	423
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
減価償却費	829	1,892
繰延法人税等	△ 472	△ 9
売上債権の増減(△増加)	△ 1,924	△ 994
棚卸資産の増減(△増加)	△ 3,050	△ 3,794
買掛金の増減(△減少)	3,645	3,543
未払費用の増減(△減少)	△ 175	△ 3,315
製品保証引当金の増減(△減少)	147	△ 49
前受金の増減(△減少)	1,851	45
未払退職および年金費用の増減(△減少)	29	35
その他	105	353
営業活動によるキャッシュ・フロー 計	1,331	△ 1,870
投資活動によるキャッシュ・フロー		
短期投資の増減(△増加)	12,652	—
有形固定資産の売却による収入	0	22
有形固定資産の購入額	△ 558	△ 3,129
無形資産の購入額	△ 69	△ 98
その他	48	△ 45
投資活動によるキャッシュ・フロー 計	12,073	△ 3,250
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増加(△減少)	41,146	△ 25,000
社債発行による調達	—	25,000
配当金の支払額	△ 794	△ 1,577
その他	0	8
財務活動によるキャッシュ・フロー 計	40,352	△ 1,569
現金および現金同等物に係る換算差額	△ 962	△ 1,535
現金および現金同等物の純増減額(△減少)	52,794	△ 8,224
現金および現金同等物の期首残高	75,323	58,218
現金および現金同等物の四半期末残高	128,117	49,994

(5) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(6) セグメント情報

単位：百万円					
前第1四半期連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年6月30日)					
半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	合計	
外部顧客に対する売上高	19,958	3,983	2,907	-	26,848
セグメント間の内部売上高	187	33	-	△ 220	-
売上高	20,145	4,016	2,907	△ 220	26,848
調整前営業利益 (△損失)	2,603	△ 194	375	△ 2,000	784
(調整) ストック・オプション費用					-
営業利益					784

単位：百万円					
当第1四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)					
半導体・ 部品テスト システム事業	メカトロ ニクス 関連事業	サービス他	消去または 全社	合計	
外部顧客に対する売上高	25,521	3,239	4,595	-	33,355
セグメント間の内部売上高	361	106	-	△ 467	-
売上高	25,882	3,345	4,595	△ 467	33,355
調整前営業利益 (△損失)	3,345	△ 1,147	26	△ 1,468	756
(調整) ストック・オプション費用					-
営業利益					756

(注) 1. 全社に含まれる営業利益への調整は、主として全社一般管理費および事業セグメントに割り当てられていない基礎的研究活動に関連する研究開発費であります。  
2. アドバンテストは、ストック・オプション費用調整前営業利益 (△損失) をマネジメントによる事業別セグメントの評価等に使用しております。

(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

## 2012年度第1四半期 決算(連結)の概要

### 1. 受注・受注残

(単位:億円)

	2011年度実績				2012年度実績		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	前期比
受注高	384	276	259	343	462	20.1%	34.5%
受注残	412	400	352	236	364	△11.6%	54.3%

### 2. 損益

(単位:億円)

	2011年度実績				2012年度実績		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	前期比
売上高	268	377	307	458	334	24.2%	△27.3%
売上原価	137	205	173	208	158	14.8%	△24.1%
研究開発費	58	80	77	88	81	39.2%	△8.4%
販売費および一般管理費	65	123	87	101	87	34.3%	△13.7%
営業利益 (売上高比率)	8 (2.9%)	△31 (△8.2%)	△30 (△9.9%)	61 (13.4%)	8 (2.3%)	△3.6%	△87.7%
営業外損益	△4	△20	△4	△14	5	-	-
税引前当期純利益 (売上高比率)	4 (1.4%)	△51 (△13.4%)	△34 (△11.1%)	47 (10.1%)	13 (3.8%)	231.7%	△73.0%
法人税等	1	△3	△2	△8	9	-	-
当期純利益 (売上高比率)	3 (1.3%)	△48 (△13.0%)	△32 (△10.4%)	55 (12.1%)	4 (1.3%)	22.4%	△92.4%

### 3. 2012年度業績予想

(単位:億円)

	2012年度業績予想			
	2Q累計		通期	
	金額	前年同期比	金額	前年度比
受注高	750 ~ 800	13.7% ~ 21.2%	1,520 ~ 1,780	20.4% ~ 41.0%
売上高	720 ~ 770	11.7% ~ 19.5%	1,500 ~ 1,700	6.3% ~ 20.5%
営業利益 (売上高比率)	30 ~ 60 (4.2%) (7.8%)	-	120 ~ 200 (8.0%) ~ (11.8%)	14.3倍 ~ 23.9倍

### 4. 財政状態

(単位:億円)

	2011年度実績				2012年度実績	
	1Q末	2Q末	3Q末	4Q末	1Q末	前期比
総資産	2,252	2,289	2,195	2,192	2,131	△2.8%
株主資本	1,369	1,276	1,250	1,316	1,257	△4.4%
株主資本比率	60.8%	55.7%	57.0%	60.0%	59.0%	-

### 5. 配当の状況

(単位:円)

(基準日)	2011年度			2012年度予想		
	中間期末	期末	年間	中間期末	期末	年間
1株当たり配当金	5.00	10.00	15.00	10.00	10.00	20.00